



西産建第57号
平成19年5月7日

国土交通省道路局長 様

西浅井町長 熊谷定義



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付け、国道企第114号で依頼のあった、このことについて別紙により報告します。

平成 19 年 5 月 7 日

「道路特定財源の見直しについて」

西浅井町長 熊谷定義

昨年末に政府・与党は「道路特定財源の見直しに関する具体策」について合意し、揮発油税の税込額を道路整備に当てることと義務付けられている「財源特例法」を 2008 年に改正することや、道路歳出を上回る税収を一般財源化することとされた。

近年の厳しい財政状況から、政府は道路特定財源の見直しについて再三議論されてきたが、道路中期計画に定められる「真に必要な道路」とは何か、また、すでに建設が決定しているといわれる「9.342km」以外の道路や地方の道路はどうなるのか懸念が生じる。地方行政を預かる立場から日ごろ感じていることの一部を申し述べます。

・現在の西浅井町の状況

西浅井町はびわこの最北端に位置し、古くから湖上交通の要衝として、北陸から丸子船で京阪神へ物資とともに文化を運ぶ北の玄関口として栄え、塩津港と塩津海道は塩津港遺跡や船倉、船宿の格子風景など今も当時の面影を数多く残している。

昭和になり湖上交通から国道 8 号、国道 303 号や JR 北陸本線、湖西線などの陸上輸送に変わったが今も近畿地方や中京地方と北陸地方を結ぶ交通の要衝であることに変わりはない。

こんな中で昨年 10 月 21 日より長年の夢であった JR 北陸線の直流化と「びわこ環状線」がいよいよ開業された。特に西浅井町の近江塩津駅は北陸線と湖西線の接続駅として、新快速の発着駅として JR の利便性が大きく向上し期待を寄せている。

これを契機にさらに列車の利用促進に努力するとともに、一昨年から新たにオープンした国道 8 号沿線の塩津浜地先にある西浅井町の農林漁業特産物直売施設「奥びわこ水の駅」や昨秋に完成した永原駅前の県営住宅などとともに地域の発展と若者定住に努めたいと考えている。

また、一昨年から、67 回の歴史を誇る、関西学生対校駅伝が、「びわこ大学駅伝」として新たな舞台をびわこに移して開催されることになった。西浅井町からスタートし、大津までの湖西路の 8 区間 83.4km を関西と東海、西日本の選抜 26 チームで競うこととなった。東の箱根駅伝に対して西のびわこ駅伝としてさらに大きな大会となることが期待され、駅伝スタートの地として盛り上げていきたい。

・交通や道づくりの課題

JR とともに、国道 8 号や国道 303 号も北陸へつなぐ主要な道路として近

年通行量も増加しており、行楽シーズンには渋滞することが多く、また、冬期は、北陸自動車道路が積雪等による通行規制になると車両は木之本インターから国道8号へ迂回されることから、たびたび渋滞や停滞が起こって道路の除雪作業にも支障をきたすことがある。

一昨年(2011年)の12月14日福井県南越前町河野地先で発生した雪による崩土で国道8号が遮断され、これを先頭に滋賀県側の木之本地先まで約34Kmに亘り2日間車両が停滞し、道路交通が遮断された。本町では情報の収集や「水の駅」のトイレを開放するなどの対応に追われ、地域住民は通勤や通学に支障をきたすなど町民の生活にも大きな混乱と影響を及ぼしたところである。こうした災害発生時や重大事故など緊急事態への備えとして、幹線道路の整備と緊急時の対応が強く求められているところである。交通弱者である子どもや老人が多く利用する歩道整備も急務であると考えている。

・住民参画型の道づくりへ

また本町の塩津浜地先は国道8号が一部集落内を通過し、しかも大きなカーブのため見通しが悪く、騒音や振動と事故の危険性が大きい。このことから、早くから木之本町界から3.5Kmの区間のバイパス工事を要望してきたところである。このうち第2工区の1.5Kmの藤が崎トンネルと取り付け区間は平成8年に完了したが、その先の第1工区の2Kmについては、集落内を通ることから国土交通省が改良の計画をするにあたって地元の意見をとり入れるため、地元や関係機関の代表者で構成する「国道8号塩津浜地区パートナー協議会」が設立され、平成16年より1年間に亘って道路の構造などについて協議・検討し昨年協議会におけるその案がまとまった。

これを基に今後、本格的な調査や設計を経て計画が立てられると期待をしているが、1日でも早くこれが完成し安全で快適な道路となることを願っている。また、今回住民参画型の道づくりということで、住民の皆さんにも参加をしていただき道路のあり方についてともに考えてもらう機会が与えられたということで道に対する関心も高まり、大きな成果があった。今後もこうした方法で検討され、早急により良い道路整備がなされることを望むものである。

また、この区間より北側の福井県境まで、歩道の設置や消雪工事、拡幅改良などの課題も多く、引き続き対策を講じていただかなければならない箇所も多くあり、地域間格差是正や生活者重視の視点から、事業のスピードアップによる効果の早期発現が期待される。

・道づくりの期待と懸念

道路は地域間の経済や町づくりにはなくてはならないものであるし、特に交通の要衝である本町にとっては単なる通過地点でなく、留まってもらってこの町の良さも体感してもらおうということが町づくりに繋がるということから、「奥びわこ水の駅」は今後さらに充実していくとともに、今後は道路や地域の情報を発信する場所としての機能を持つ「道の駅」として、車を運転する人の安ら

ぎの場とするとともに、ここを核として新たな交流と賑わいの場となるとともに、町民の皆さんが生きがいと誇りの持てる町づくりを目指していきたい。

地方では、人・物の移動の大半を自動車に依存しており、地域経済の強化や安心して暮らせる地域社会の形成にとって、道路網の整備は不可欠である。しかしながら、国道8号だけでなく、その他の国道や県道、町道についても未整備のところがまだまだ数多くある。

今、道路特定財源の見直しが検討されているが、道路は都市と地方を結ぶ生命線であり、地域を活性化するには道路の整備は必要不可欠のものであると確信する。「道路特定財源」は車を利用する皆さんが道路を良くする目的で払って頂いた貴重な財源であることから、まだまだ整備を必要とするところが大きい地方の道路の実情を精査していただき、安全と快適な町づくりのため、さらに道路整備が進むことを願うものである。財政再建のために安易な一般財源化とならないよう道路特定財源として有効に活用していただけるよう、中期計画の策定に当たって強く願うものである。